

(続紙 1)

京都大学	博士 (人間健康科学)	氏名	宇多 雅
論文題目	Factors associated with anxiety and depression in rheumatoid arthritis patients: a cross-sectional study (関節リウマチ患者の不安および抑うつに関連する因子：横断研究)		
(論文内容の要旨)			
【背景】 関節リウマチ (RA) 患者においては、不安症状や抑うつ症状の管理が極めて重要である。RA患者の不安症状・抑うつ症状に関する既報では結果に相違がみられ、より積極的な調査が求められる。本研究の目的は、身体機能障害、疼痛、治療薬をコントロールした上で、RAの疾患活動性と不安および抑うつ症状との関連を明らかにすることである。			
【方法】 KURAMA (Kyoto University Rheumatoid Arthritis Management Alliance) コホートを用いて横断研究を実施した。評価には、Disease Activity Score (DAS28)、Health Assessment Questionnaire Disability Index (HAQ-DI)、Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS)を使用した。HADSスコアが8以上でそれぞれ不安症状あり、抑うつ症状ありと評価した。解析には、多変量ロジスティック回帰分析を用いた。			
【結果】 517名のうち、17.6%に不安症状、27.7%に抑うつ症状を認めた。多変量ロジスティック回帰分析の結果、DAS28は不安症状 (OR [95%CI] : 0.93 [0.48-1.78] ; p=0.82) および抑うつ症状 (OR [95%CI] : 1.45 [0.81-2.61] ; p=0.22) に関連していなかった。しかし、DAS28の構成要素の中の患者全般評価patient global assessment (PtGA) の重症度が不安症状 (OR [95% CI]: 1.15 [1.02-1.29]; p = 0.03) および抑うつ症状 (OR [95% CI]: 1.21 [1.09-1.35]; p < 0.01) と関連していた。さらに、HAQ-DIスコアの非寛解 (HAQ-DI>0.5) の状態が不安症状 (OR [95% CI]: 3.51 [1.85-6.64]; p < 0.01) および抑うつ症状 (OR [95% CI]: 2.65 [1.56-4.50]; p < 0.01) と関連していた。ステロイドを使用している患者には、ステロイドを使用していない患者よりも抑うつ症状を認めた (OR [95% CI]: 1.66 [1.03-2.67]; p = 0.04) 。			
【結論】 本研究では、RAの疾患活動性と不安症状および抑うつ症状に関連はなかった。PtGAスコアが高い患者やHAQ非寛解の患者は、疾患活動性の寛解状態にかかわらず、不安や抑うつ症状を有していた。RA患者の不安症状や抑うつ症状を理解するためには、疾患活動性のコントロールのみに焦点を当てるのではなく、患者の主観的な体験や身体機能の維持・改善に留意しWell-beingに焦点を当てた治療を行う必要がある。			

(続紙 2)

(論文審査の結果の要旨)

本論文は、関節リウマチ患者の不安・抑うつ症状に寄与する因子を明らかにすることを目的とし、身体機能障害、疼痛、治療薬を調整して、疾患活動性およびその構成要素と不安・抑うつ症状との関連について検討したものである。KURAMA (Kyoto University Rheumatoid Arthritis Management Alliance) コホートを用い、517名を解析対象とした。78.9%が疾患活動性の寛解に分類され、17.6%に不安症状、27.7%に抑うつ症状がみられた。疾患活動性の寛解・悲寛解においては不安症状・抑うつ症状ともに有意な関連を認めず、身体機能障害が関連していた。疾患活動性を構成要素に分解して検討すると、患者自身による健康状態の主観的評価であるPtGA(patient global assessment)が不安症状にも抑うつ症状にも関連しており、また身体機能障害も不安症状にも抑うつ症状にも関連していた。したがって、関節リウマチ患者の不安症状・抑うつ症状には患者の健康状態の主観的評価と身体機能障害の低下が関連することが示唆された。これらの結果から、疾患活動性としては寛解状態にあっても、全般的健康状態の主観的評価が低い、あるいは日常生活を営むための身体機能障害がある患者は不安症状や抑うつ症状を有するリスクが高い患者として早期からの予測と介入を行っていくことが重要であることが示唆された。

以上、本論文は、関節リウマチ患者の疾患活動性と不安症状や抑うつ症状の関連の解明に貢献し、不安・抑うつ症状の予防と介入のための看護実践に寄与するところが大きい。したがって、本論文は博士(人間健康科学)の学位論文として価値あるものと認める。なお、本学位授与申請者は、2022年6月9日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。

要旨公表可能日： 年 月 日以降